

春はあけぼの①

六年 組

（春）

1 次の表現をみつけ、線を引き、記号を書きましよう。

①…言い切り（体言止め） ↓ 「もの」で文が終わる。

春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、

紫だちたる雲の細くたなびきたる。

2 筆者である清少納言は、「春のあけぼの」のどのような様子がいいと
思ったのでしょうか。

(夏)

3 次の表現をみつけ、線を引き、記号を書きましよう。

①…言い切り (体言止め) ↓ 「もの」で文が終わる。
②…くり返し (反復法) ↓ 同じ表現がくりかえされる。

夏は夜。

月のころはさらなり。やみもなほ、
蛍の多く飛びちがひたる。
また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。
雨など降るもをかし。

当時の言葉の豆ちしき

「をかし」…「かわいい、素敵すてきな、愛あいらしい」
様子を表す言葉です。

4 筆者である清少納言は、「夏の夜」のどのような様子がいいと
思ったのでしょうか。

(秋・冬)

5 筆者である清少納言は、せいしょうなごんそれぞれの季節の、どのような様子がい
とあったのでしょうか。

(秋)

(冬)